

令和元年度 授業改善推進プラン 調布市立(緑ヶ丘小)学校

【児童・生徒の学力向上を図るための調査結果の分析より】

【学力向上に関する学校経営方針】

- 児童が学びの主体となることを目指し、「アクティブ・ラーニング」の手法を取り入れた授業をつくる。
- 問題解決学習を中心とした授業充実を図り、児童が自ら課題意識をもち進んで学びに取り組めるようにする。
- 繰り返し学習や東京ベーシックドリルの活用により、学力の基礎・基本の徹底を図る。
- 定期的に課題を出し、児童の家庭学習習慣を身に付けさせる。(宿題)
- 授業規律を大切にし、秩序ある落ち着いた学習環境の中で「よく考え」「真剣に学ぶ」態度を育成する。
- 児童の学習状況を保護者に知ってもらうため、授業参観日を各学期1回設ける。また時間割の半分以上を座学に設定し、各児童が授業に臨む状況を保護者が把握できるようにする。
- 地域の文化・自然・施設・人材を活用し、地域に密着した体験的・直接的な豊かな学習を充実させる。
- 地域施設における学習成果の発表を授業の一環として捉え、多様な学習活動を展開し、地域

【都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」に関する調査結果分析内容】

- ～各教科の調査結果より～
- 東京都と学年を比べると、国語が1.9%、社会が4.5%、算数が3.2%、理科が1.8%上回っている。
- 正答数の人数分布を見ると、低得点層と高得点層の2つの山がある。つまり正答数にばらつきがあり、一斉授業で全員に意欲的に学習に取り組ませる難しさを感じる。また1組、2組の教科による得点分布の差がある。
- ～観点別の調査結果より～
- 教科の内容に関しては、学年の平均は概ね東京都の平均を上回っている。東京都の平均を下回っている項目は、3項目である。社会の「思考・判断・表現」が6.5%、国語の「知識・理解」が2.4%、理科の「知識・理解」が1.1%で下回っている。
- 項目の設問ごとの正答率を見ると、国語では文法事項を問う「言語についての知識・理解・技能」の正答率が低い。言語に関する指導は、取り出して行う指導だけでなく、日常的にも取り組めるようにする必要があるだろう。社会では「観察・資料活用の技能」の正答率が、算数では「数学的な考え方」の正答率が低い。いずれも日常の学習の中で資料から必要な情報を取り出すことや資料から読み取れることを整理すること、また読み取ったことや考えたことを自分の言葉で伝えることなど、さらに継続して行うことが重要である。理科では、「自然事象についての知識・理解」の正答率が伸び悩み、基礎的・基本的な事項の復習を取り入れながら単元の系統性を鑑み、既習事項を生かしながら考えることのできる授業づくりをしていくことが大切である。

【授業改善の方針・目標】

- 児童が興味・関心をもって意欲的に学習をすすめるための楽しい学習教材や、学習課題の工夫に努める。
- 解決する力の育成を目指した指導方法を追究していくとともに、思考力・判断力・表現力の向上を目指した授業展開を行う。
- 知識・理解の定着をめざした反復練習や復習・確認テストを計画的・継続的に行うとともに、個に応じた指導を充実させていく。
- 児童の実態を的確に把握することに努め、十分な教材研究と指導方法形態の工夫を通して、授業力の向上を図る。

【授業改善のための具体的な取組】

- 一人一人が分かる喜びとできる喜びを味わうために、教材・授業展開・表現活動等の工夫や改善に努め、グループ学習、ペア学習などの充実、交流学习の重視など児童が関心をもち意欲的に学習活動に取り組む授業を目指していく。
- 児童が、自分の考えをノートに適切に書いたりまとめたりすることができるように、児童の思考の流れに沿ったわかりやすい板書に努める。
- 第3～6学年で算数の習熟度別学習では、単元の始まりにガイダンスを行い、学習コースを適切に選択させる。習熟度による学習コースごとの学習計画に基づいた問題解決型の授業を行う。
- 東京ベーシックドリルを長期休みの課題や補習学習などで効果的に活用する。
- 〈授業力の向上〉
- 週1回は、習熟度別算数加配教員と学年担任による授業の打合せを行い、算数の指導方法の工夫や習熟度別コースの情報交換、教材研究等を行う。
- 本校の「学習面のベーシック」と「環境面のベーシック」を基に発達段階に応じた授業規律と学習環境を整え、全校で一貫した指導を行う。
- 校内研究の国語科では、分科会による授業研究を進め、各学年で年に1回研究授業を行う。また、その授業に向けて、分科会で先行授業を行うなど全教員が授業研究を行い、指導力の向上を目指す。
- 初任者研究授業等、校内における授業研究に可能な限り参加し、「主体的」「対話的」「深い学び」の視点で授業を参観して、自己の授業に生かす。
- 校外の研究発表会・研究授業等に参加して得られた情報や学んだことを会議等で報告し合い、校内に還元していく。
- 〈家庭や地域との連携〉
- 計画的、継続的に宿題を課し、学年の発達段階を考慮した家庭学習の習慣化を図る。
- 木曜日の朝の読書タイムに本や絵本の読み聞かせを保護者の協力のもと行う。
- 地域の方や保護者にゲストティーチャーとして、学校の教育活動への参加を依頼し、体験的な活動を重視した学習を充実させる。
- 「ふれあい給食」を通して、高齢者との交流活動を進める。

【取組の進行・管理, 評価方法, 時期】

- 日常的に同僚や管理職に授業を公開し、教師相互による忌憚のない意見交換や指導のもと、指導方法と授業力の向上に努める。
- 教師や保護者、学校評議員による学校評価や児童の実態を教育活動に反映させる。
- 各学年とともに令和元年度の各教科単元の指導計画に基づいた計画・評価を行い、学校の到達度を明らかにする。
- 研究授業での協議・評価をもとに指導方法の検証・改善を図る。